

令和4年度第1回釧路市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時	令和4年6月1日(水) 14:00~14:45
場所	釧路市観光国際交流センター
出席委員	30名(うち代理出席2名) 欠席3名
事務局	5名
オブザーバー	2名(うち代理出席2名) 欠席1名

1 開会

2 新委員紹介

3 議事

【報告事項】

(1) 令和3年度事業報告及び決算、監査報告について 資料1~3

- ・事務局より説明
- ～質疑あり～

【協議事項】

(1) 地域内フィーダー系統確保維持計画案について 資料4

- ・事務局より説明
- ～質疑あり～

(吉田委員)

- ・ 参考までに、イオン鶴野線の収支率が好調で、目標を大幅に達成できた要因を教えてください。
- ・ ネットトヨタのバス待合室を設けたことによって、バス利用者は増えたのかどうか教えてください。

(須田委員)

- ・ イオン鶴野線の収支率についてですが、経費が非常に少ないため、収支率が上がっています。イオン鶴野線は片道6.9キロ、イオンリフレ線(大楽毛経由)は26.5キロとなっており、経費が抑えられたことによって収支率が上がったように見えているものです。実は、収入はあまり高くありません。

(事務局)

- ・ ネットトヨタの待合場所の利用率は現在そこまで高くないと聞いております。  
コロナ禍により、外出が少ないという要因もありますが、事務局としては、このような待合場所が様々な箇所に増えていくことを期待しておりますので、利用促進に向けてPRを行っていきたいと考えております。

(秋里会長)

- ・ 須田委員からご説明があったとおり、収支率が高いように見えて、実際には厳しい状況もあるのかなというのが分かりました。待合場所の関係も、まだこれからというのはありますが、このような場所が広がっていけばということです。

(吉田委員)

- ・ 収支率が高かった仕組みは理解できましたし、コロナ禍の影響があって利用がなかなか伸びないというのも重々承知しております。私たち商店会としても、お店が待合場所となる可能性がある場所も結構ありますし、収入を増加するための利用促進の部分については、どのように待合環境を改善すれば良くなっていくのか。そういったところも商店会で担えるのであれば、何かあればお声がけいただければと思います。

(秋里会長)

- ・ 収支というのは、数字だけでは中々測れない部分もあるのだと思います。
- ・ 基本は、利用を上げていく。そのための環境を整えるという意味でも、待合所も一つの視点なのかなと思いますが、やはりしっかりと周知・PRをして、使ってもらってこそ、この計画の達成に近づけるとと思いますので、関係各位のご協力を引き続きいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 4 その他

(1) 釧路町デマンドバスにおける白樺台停留所での乗降について

- ・ 事務局より報告

(2) くしろバス様よりご報告

- ・ 冒頭、事務局より説明

(事務局)

- ・ 私から、くしろバス様のご報告の趣旨・概要などについてご説明いたします。
- ・ 3月23日に開催いたしました協議会の場で、くしろバスの畑毛委員より、新型コ

コロナウイルス感染症の感染拡大が本格的となった令和2年度から、くしろバス様・阿寒バス様の運送収入及び輸送人員が大きく落ち込んでいる現状のご説明があったところでもあります。

- ・ この状況を受け、この度、くしろバス様より、10月1日のダイヤ改正に合わせて、何路線か減便を行わなければならない旨、市にご相談があったところでもあります。
- ・ それでは、くしろバス 原委員代理お願いいたします。

#### (原委員代理)

- ・ 本日、代理で参りましたくしろバス(株)の原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 前回の協議会で、阿寒バスさんと同様にくしろバスもコロナの影響を受け、大変厳しい状況であるご報告させていただきました。その際に、岸先生からはデータ取りが大事だということで提言をいただきましたので、先月の中旬にバスに実際に乗り込みまして、何路線かの乗降調査を行いました。
- ・ そのデータについては、市に情報共有させていただきまして、現在、分析を進めているところでもあります。
- ・ 中々状況が好転してこなく、収入の状況がコロナ前の水準に戻るというのは無理ではないかと社内では協議しているところです。
- ・ 10月のダイヤ改正に向けて、今、具体的な便数などはこの場ではご説明できませんが、減便は避けて通れない状況だということをご理解をいただきたいと思っております。
- ・ また、減便の際には、運輸支局様への届出も必要になりますので、運輸支局様の指導も仰ぎながら、釧路市様とも相談させていただきながら、効率の良い周知の方法を協議させていただければと考えております。

#### (事務局)

- ・ 原委員代理、ご説明ありがとうございます。
- ・ ご説明のありましたとおり、10月1日のダイヤ改正に合わせて減便に向けて調整を行っていくこととなりますが、
- ・ 引き続き、市とくしろバス様の間で、減便に必要なデータの収集や減便案の調整などについて、協議を進めてまいりたいと考えております。
- ・ 次回の協議会は、7月中の開催となります。その協議会の場で、具体的なデータと減便案などをお示しし、委員の皆さまからご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(秋里会長)

- ・ まだデータの分析中ということもありますので、詳しくは次回での協議ということになりますが、皆さんの中で議論できる状況をしっかりと担保していきたいと考えております。

(若杉委員)

- ・ 今の原様からのお話の確認だったのですが、今回、分析作業を進めている中で、そこに住民の意見ですとか、アンケートやヒアリング等は組み込まれる予定でしょうか。

(原委員代理)

- ・ 乗降したデータを基にして進めておりますので、明らかに利用者が多い時間帯は触らないようにしたいと考えております。利用者にはできるだけ迷惑が掛からず、経費が落ちていくような減便ができればと考えているところです。
- ・ お客様の声を聞いてしまうと、残さざるを得ないところばかりになってしまって、結局減便ができないという状況になりかねないので、データに基づいての減便を行おうと進めているところです。

(秋里会長)

- ・ 現在、データの解析中だということでもあります。社内でも、できるだけ住民の方に迷惑が掛からないように、案の作成を進めておられるのだと思います。
- ・ この案につきまして、委員の皆さま方から次回、住民の方への周知の点も含めてご議論をいただければと思っております。

(秋里会長)

- ・ 先ほど、大変厳しい現状のご報告もあったところであります。コロナ禍ということもあって、中々移動ができなかった部分もありますけれども、やはり、少しずつ利用を戻して行って、一人でも多くの人に利用していただくというのを大事にしていきたいですし、そのために広報くしろ4月号でも1面トップを飾ったところであり、色々な情報をお出ししているところであります。
- ・ これを粘り強くやって行って、皆さまの組織の中でも周知・PRをお願いしたいと思います。70歳以上の方がバスを100円で乗車できる「おでパス」もございます。また、循環バスぐるっとについては、新しく作った路線でもありますので、これがどこをどう動いているのかというのは徹底してPRを市としても当然やってまいりませけれども、皆様の中でもご協力をいただければ大変ありがたいなと思うところであります。

(岸委員)

- ・ 先ほどのくしろバスさんの減便の件については、前回、私が「データを集めてやった方がいいですよ」とお話ししたことに対して、色々ご対応いただいているようで、ありがとうございます。
- ・ 私、別の町で協議会の委員をやっていたときに、あるバス会社が「来月からダイヤ変えます」ということを、せっかく協議会があるのに、報告で終わってしまうような町がありました。結果、そのような町は、住民の皆さん、バス会社、行政との関係性もそんなにつながりがあるわけではなかったと思います。周知もうまくいかないから、結局どんどん利用者が離れていくというのを目の当たりにしたことがあります。
- ・ 釧路市の場合は、こうやって協議会の形がきちんとできていますので、次回の7月の時は私も現地で参加しなければならないなと思いながらお話を聞いておりました。
- ・ 住民のお話を聞いたらやはり、残せ残せとなってしまうと思います。それは運輸支局さんの質問に対して、くしろバスさんの回答はごもっともなお話であります。
- ・ そんな中で、減便するにしても住民の皆さんが納得できるような形での減便の仕方というのを何とかこの協議会の場で議論出来ればなと思っております。
- ・ 次回は、データが出てきて、こうなりましたというお話になるのだと思うのですが、事前に釧路市さんとくしろバスさんとの間では、内々にやりとりをしながら、協議会の場に出すという形でやっていただければと思っております。

(岸委員)

- ・ 昨日、私が副会長になっている北海道運輸交通審議会がありました。その場で、色々な取り組みのお話があったときに、バス協会さんからの発言が、全道のバス会社でこれだけ路線バスと観光バスなど運輸収入が落ち込んでいて大変だというお話がありました。
- ・ 大変なのは仕方がないなと思いながら、何とかそこを乗り越えていくしかないのだろうなという風に思います。私がある場でコメントしたことの中でこの場でお話したいと思うことが1つあります。
- ・ 今、東京の方で「アフターコロナに向けた地域交通の「リ・デザイン」有識者検討会」というのが立ち上がっていて、東大の中村文彦先生が委員長をやっています。コロナ禍の公共交通をどうしていくか考える中のキーワードの一つに、「共創」という概念が出てきています。
- ・ その概念が、行政の予算に頼らない。要するに、予算が出るところからどんどん引っ張ってきてという、ちょっと生々しいお話かもしれないですが。そういう形での、色々な人たちが連携しながらやっていきたいと思いますということをキーワードに議論されていて、その議論の行方に注目しているところです。
- ・ 昨日の審議会でも発言したのですが、現状、事業者さんも大変で、行政も予算がな

くて、おそらく交通の関係者の中で集まって「共創」していこうとしても、「私たちはできないからあなたがやって」ということになり、最後は責任のなすりつけ合いになるんじゃないか、という懸念を私は持っています。

- ・ その部分を、国は最後どうやってまとめるのかなと注目しているところです。
- ・ 私自身思うのは、やはり「共創」という概念は良いことで、連携もしていかなきゃいけないのですが、運輸事業者さんの利用者と行政という枠組みの中での「共創」では現状を打破することは難しいのだと思います。その外側の人たちとどうやって連携していくのかということなのだと思います。
- ・ 先ほどの、トヨタの店舗に待合所というの、外側の人たちとの連携の一つなのかなと思って話を聞いておりました。道庁のMaaSの実験を十勝でやった時には、観光地とかあるいは公共施設、飲食店、病院などの目的地と連携する形のものでした。これからの「共創」という概念が向かう形は、そういう外側の部分の、とくに目的地との連携が大事になってくるのかなと思いつつ、国の議論の成り行きを見ているところです。
- ・ 今日の協議会にご参加の皆さんも、色々な立場の方々がいらっしゃいますので、繰り返しになりますが、バス会社任せでもないし、行政任せでもない、利用者きちんとしろということでもなく。外側との連携について、今後議論できればなという風に思ったところです。

(秋里会長)

- ・ 東京での動きも含めてご紹介いただきました。やはりこの公共交通というのは、どれだけ多くの方が自分事に考えていけるか、どうやって巻き込んでいけるかというのが非常に大事なのだと思います。「私のところはいいかな」「どこかで何とかやるよね」というのでは、中々解決できないくらい大きな問題なのかなと感じたところがあります。
- ・ そういった意味では、多くの方々、会社、事業者の方々が釧路の公共交通をどういった形で維持していくか、どうやって再編をしていくかというのを、少しでも自分事として捉えていただけるような方を増やしていきたいと考えております。
- ・ 今後も皆さま方と一緒に、公共交通について考えていければなと思っております。

#### 4 閉会

(秋里会長)

- ・ 以上を持ちまして、「令和4年度第1回釧路市地域公共交通活性化協議会」を終了いたします。